【２０２５年度 事業計画】

Ⅰ 事業の実施方針

2025 年は、京都議定書の発効から 20 年に、パリ協定の採択から 10 年になります。この間、地球環境と危機意識や気候対策に大きな変化がありました。気候危機は極めて深刻になり、既に世界各地で甚大な悪影響・被害がもたらされています。大規模な山火事は乾燥している外国の事と思われていましたが、岩手県、岡山県、愛媛県などで、これまでにない山火事がありました。これらの山火事も地球温暖化によって深刻化したことが科学的な研究によって解明されています。その他に、自然や生態系、農林漁業や社会生活、私たちのくらしや健康などあらゆる面で気候変動の影響が深刻しています。

一方で、脱炭素と、再生可能エネルギー100%をめざすことが世界各地で明言され、その実現の可能性も高まってきています。再生可能エネルギーは、温室効果ガス削減、雇用の創出、経済的メリット、地域の活性化につながる望ましい手段です。ところが、既存の制度・システムを温存させるような仕組みづくりや働きかけがあり、障害も多くあります。

脱炭素・再エネ 100%に向けた社会・経済の大きな転換が必要です。そのためには、市民による草の根の活動が求められていて、世界中の志のある人々による取り組みが広まってもいます。その取り組みの一つとして、きょうとグリーンファンドの活動が位置付けられるはずです。地域から再生可能エネルギーを普及させ、より安心で安全な社会、格差の解消や平和構築にもつながる持続可能な脱炭素社会を築いていく希望をつなげる一筋が求められています。

このような状況を踏まえて、2025 年度もきょうとグリーンファンドが取り組んできた活動を継続して、多くの人々や団体と連携しながら、社会の課題解決と脱炭素地域づくりにつながるおひさま発電所づくりに取り組んでいきます。

① 脱炭素をめざす枠組み「市民再エネプロジェクトin京都」で、おひさま発電所設置拡大を軸に、さらに再生可能エネルギーの普及に努めます。
② 環境問題への関心を深め、具体的な行動に結びつけるための環境学習を広げます。
③ 認定NPO法人の制度を活用し、企業などさまざまなセクターからの理解を得ながら、財政基盤の強化に努めます。
④ 上記の活動を達成するため、会員の拡大に努めます。

Ⅱ 特定非営利活動に係る事業

太陽光発電設備設置事業

・市民再エネプロジェクトin京都として、「おひさま発電所」の設置に取り組みます。
・寄付、おひさま基金からの助成、設置協力金、補助金などを組み合わせた仕組みで、さらに設置施設の拡大をめざします。
・「おひさま基金」の基盤強化に努めます。

再エネ新電力との協力・連携

脱炭素社会を実現するためにはまだまだ再エネが足りません。そのためにも太陽ガスをはじめとした再エネ新電力との協力・連携を強めていきます。

再エネ新電力がおかれている状況は厳しい局面ですが、太陽ガス（ハッピーエナジー）への紹介活動を強め、知り合いに声かけを行っていきます。

学習活動

2025年度は環境学習の案内を送るだけでなく「おひさま発電所」の中で、しばらく環境学習を実施されていない園に実施に向けて積極的にお声がけしていきます。環境学習へのお申込み時に、環境についての園での困りごとや、疑問に思っていること、ご要望などをお聞きして、環境学習に反映させ実施します。環境腹話術の内容を簡単にまとめた小冊子を作り、環境腹話術を実施した後、子どもたちに家に持ち帰ってもらい家庭へのエコの普及を促します。太陽光発電の災害時の自立運転の仕方などの職員研修の呼びかけは、今年度も続けていきます。

2025年度の環境学習として以下の活動を行います。

① 子どもたちに向け、環境腹話術、自然観察会などのプログラムを各施設に提供します。
② 災害時、避難施設の電源として「おひさま発電所」の自立運転への切り替え方、活用方法などをレクチャーすると同時に防災の観点からの学習会をします。
③ 雨水タンクの設置を通じて、子どもたちに水の大切さを伝えます。
④ 園の職員に向けた自然観察会を提供します。
⑤ 環境への意識改革と行動を促す内容の職員研修を実施します。（以下　テーマ例）
　・エコすごろく作りワークショップ
　・パペットシアターのシナリオ作りワークショップ
　・省エネワークショップ
⑥ 環境学習の見学会を実施します。同時に「おひさま発電所」設置施設では「おひさま発電所」の見学会も実施します。

サポート活動

① 上鳥羽北部いきいき市民活動センター(以下いきセン)に対する環境活動のサポート
・いきセンと協働して継続してきた上鳥羽地域での環境活動のサポートも 11 年目となります。「上鳥羽エコまちくらぶ」の「上鳥羽エコメイト」とともに上鳥羽地区でのエコ活動を進めていきます。中唐戸児童館との連携をより一層深めていきます。
・地域団体の各種イベントの機会をとらえ、環境についての関心を高め、行動につながるよう働きかけます。
② 他府県、他団体のおひさま発電所設置に関するサポートやアドバイス

広報活動

① ニュースレター「ぐりふぁんレター」の発行
年 2 回程度発行し、きょうとグリーンファンドの活動、温暖化やエネルギーなどに関する情報や会員相互の親睦を図る記事を会員、一般市民に提供します。
② 各種催しに参加
環境問題・エネルギーなどに関するイベントや地域の催しに参加して活動を紹介し、理解と協力を求めます。他団体との連携も広げます。

③ ホームページ、Facebook、Instagram などを使った情報発信
　きょうとグリーンファンドの活動状況をきめ細かく発信できるよう内容を更新します。
④ YouTube「きょうとグリーンファンド・ぐりふぁんチャンネル」の充実を図ります。

協力・連携

・認定NPO法人気候ネットワーク
・認定NPO法人環境市民
・NPO法人京都地球温暖化防止府民会議（京都府地球温暖化防止活動推進センター）
・NPO法人エコネット近畿
・NPO法人KES環境機構
・一般社団法人市民エネルギー京都
・一般社団法人上鳥羽絆会
・公益財団法人パブリックリソース財団
・京エコロジーセンター（公益財団法人京都市環境保全活動推進協会）
・京のアジェンダ21フォーラム
・京都市ごみ減量推進会議
・京都市上鳥羽北部いきいき市民活動センター
・京都市市民活動総合センター
・自然エネルギー学校・京都
・Fridays For Future Kyoto
・国際ソロプチミスト京都ーみやこ・わかば
・パワーシフト・キャンペーン
・SoftBankつながる募金
・有限会社ひのでやエコライフ研究所
・株式会社シェアリングマネジメントサービス
・ネオス株式会社
・太陽ガス株式会社（代理店：Happy Energy）
・テラエナジー株式会社
・コングラント株式会社
・OSUSO（株式会社アスダス）

以上の団体と協力、連携します。